

令和 4 年度講演会・シンポジウム 参加者アンケート 結果報告書

一般社団法人日本自立準備ホーム協議会
特定非営利活動法人食べて語ろう会
全国再非行防止ネットワーク協議会

2023(令和 5)年 2 月

一般社団法人日本自立準備ホーム協議会(日準協)・特定非営利活動法人食べて語ろう会・全国再非行防止ネットワーク協議会は、2023(令和5)年1月29日に「犯罪や非行に陥った人たちに寄り添う居場所…自立準備ホーム」をテーマとして、令和4年度講演会・シンポジウム(以下、イベントと表記する場合がある)を、広島弁護士会館(オンライン併用)にて共催で開催した。講演会・シンポジウム終了後には参加者へアンケートを実施した。本報告書は、参加者アンケートの結果をまとめたものである。アンケートの回答者総数は96名である。なお回答者が記入した内容を取り上げる場合、明らかな誤字については修正を加えたが、それ以外はいずれも原文ママである。また、個人情報に関わる記述は削除した。

Q あなたが、今回のイベントに参加された動機はなんですか？(複数回答可)

イベントに参加した動機を、「講演会・シンポジウムの内容に興味があった」「講演で竹原慎二さんの話を聴きたかった」「シンポジストの話を聴きたかった」「その他」の4つから複数回答が可能な形でたずねたところ、96名から回答が得られた(図1)。最も多かった回答は「講演会・シンポジウムの内容に興味があった」の81名であった。以下、「シンポジストの話を聴きたかった」が33名、「講演で竹原慎二さんの話を聴きたかった」が24名、「その他」が6名であった。なお、96名の回答者のうち35名は複数の動機を回答していた。

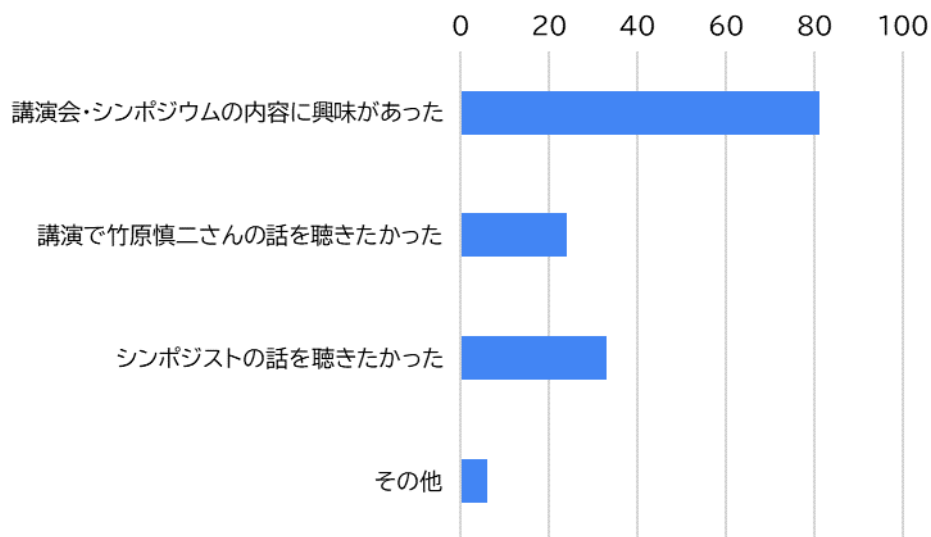


図1 イベントに参加した動機

その他と回答した方(6名)には、その内容を記述してもらった。記述内容は以下のとおりであった。

- ・ 住宅を提供すれば貢献出来るのかと簡単に考えて参加させて頂きましたが。

- ・ 日本自立準備ホーム協議会の活動に興味があった
- ・ 業務の関係上
- ・ 矯正行政従事者として必要な教養を得るため、また行政外にて再犯再非行の活動を担っておられる方々の話を聞きたかったため。
- ・ 毎回参加している
- ・ 中本さんにお会いしたかったので(人間味のあるお姿を実際に見てみたかった)

Q 今回のイベントの開催をどのように知りましたか？(複数回答可)

イベントの開催を知ったきっかけについて、「チラシや新聞を見て」「日準協や食べて語ろう会のホームページを見て」「Facebook や Twitter での告知を見て」「知人からの紹介を受けて」「その他」の 5 つから複数回答が可能な形でたずねたところ、96 名から回答が得られた(図 2)。最も多かった回答は、「知人からの紹介を受けて」の 33 名であった。以下、「チラシや新聞を見て」が 32 名、「日準協や食べて語ろう会のホームページを見て」が 19 名、「Facebook や Twitter での告知を見て」が 12 名、「その他」が 19 名であった。なお、96 名の回答者のうち 17 名は複数の方法を回答していた。

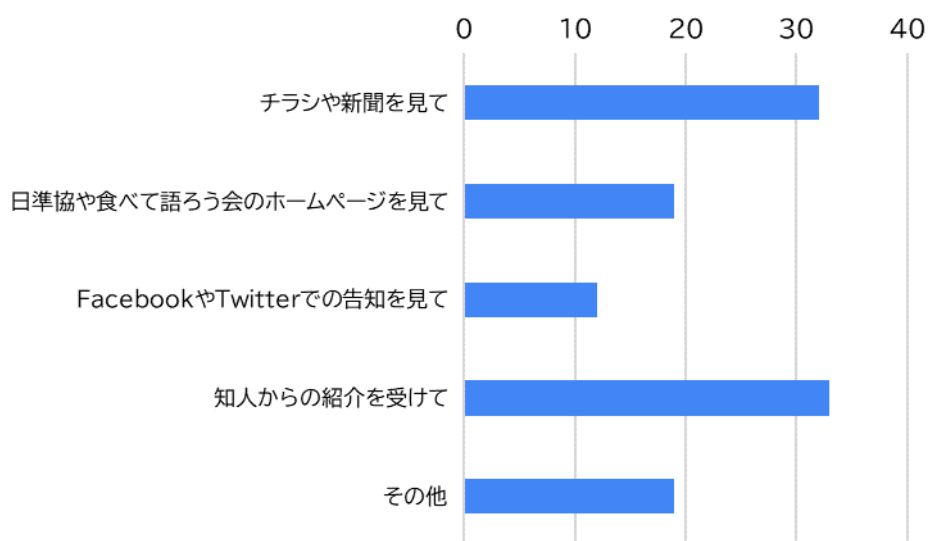


図 2 イベントを知った方法

その他と回答した方(19 名)には、その内容を記述してもらった。記述内容は以下のとおりであった。

- ・ 少し内容が思っていたのと違って居ました。しかしとても勉強に成りました。
- ・ グリーンコープひろしま理事会で紹介があった

- ・ 保護観察所からのお知らせより
- ・ NPO 非行克服支援センターからの情報
- ・ 職場回覧
- ・ 熊本保護観察所内の回覧。
- ・ 会報
- ・ 高坂さんからのご紹介を受けて
- ・ 食べて語ろう会からのお知らせ
- ・ 日本自立準備ホーム協議会の方からの紹介で
- ・ 法務省からの案内
- ・ 保護観察所
- ・ 職場での回覧
- ・ 案内をいただいた
- ・ 広島矯正管内で職員に周知されたことを受け
- ・ 施設に文書(メール)が来たから(上級官庁から)
- ・ 職場に送られてきた案内を見て応募しました。
- ・ 関係者としても関わっていました
- ・ 食べて語ろう会から

Q 会場参加でしたか？ オンラインでの参加でしたか？

イベントへの参加形態について、「会場参加」か「オンライン参加」かをたずねた(図 3)。96 名から回答があり、34 名が会場参加、62 名がオンライン参加であった。

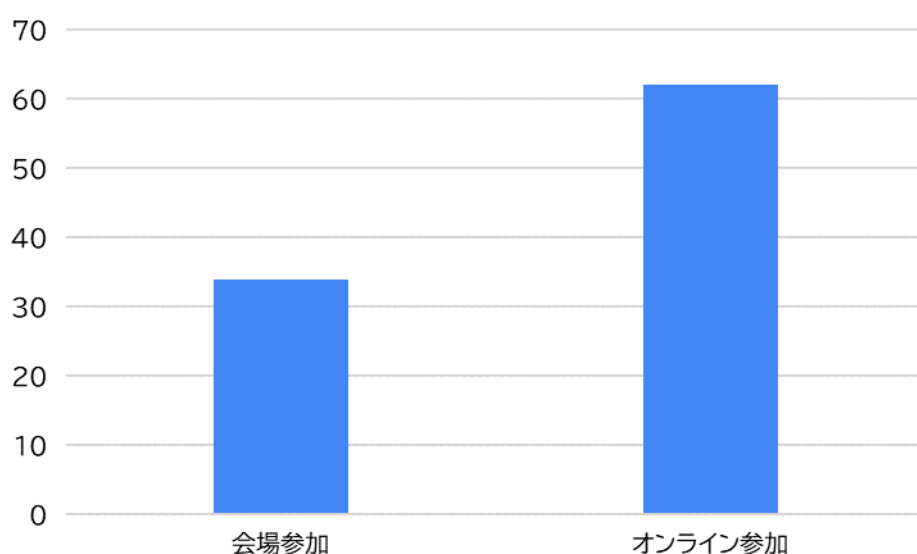


図 3 イベントの参加形態

Q 総合的にみて、今回のイベントは満足でしたか？

イベントの満足度を「非常に満足」「満足」「不満」「非常に不満」の4つから1つを選択してもらう形でたずねた(図4)。95名から回答があり、「非常に満足」が41名、「満足」が51名、「不満」が2名、「非常に不満」が1名であった。「非常に満足」と「満足」を合わせた割合は、回答者の約97%であった。

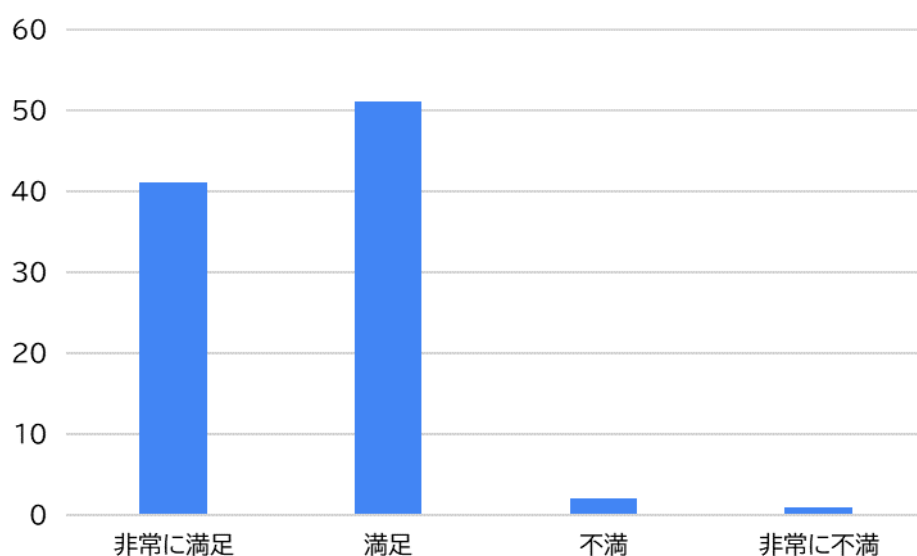


図4 イベントの満足度

Q 今回のイベントについて、あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)

今回のイベントに対する意見を、「基調講演がよかった」「シンポジウムがよかった」「自立準備ホームのことがよくわかった」「刑務所・少年院等から出所した人の社会復帰の困難さがわかった」「刑務所・少年院等から出所した人を地域社会が支援する環境が整うことがわかった」「日本自立準備ホーム協議会のことがわかった」の6つから複数回答が可能な形でたずねたところ、95名から回答が得られた(次頁図5)。最も多かった回答は、「基調講演がよかった」の64名であった。以下、「シンポジウムがよかった」が63名、「刑務所・少年院等から出所した人を地域社会が支援する環境が整うことがわかった」が58名、「自立準備ホームのことがよくわかった」が47名、「刑務所・少年院等から出所した人の社会復帰の困難さがわかった」が42名、「日本自立準備ホーム協議会のことがわかった」が40名であった。なお、95名の回答者のうち77名は複数の意見を回答していた。

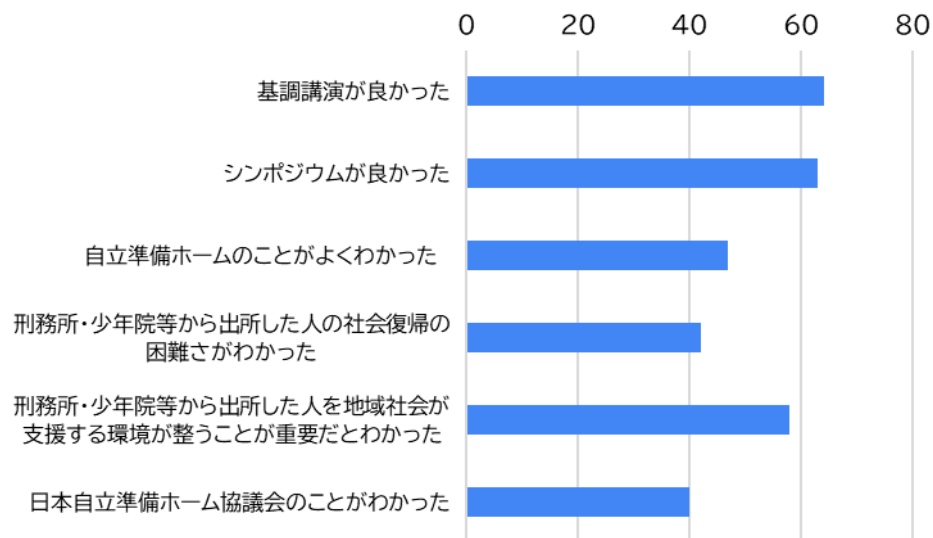


図 5 イベントに対する意見

Q 今回のイベントで、特に印象に残ったことはありますか？ 自由にご記入ください

イベントで印象に残ったことについて自由記述でたずねたところ、46 名から回答が得られた。得られた回答を、「基調講演関連」「シンポジウム関連」「基調講演・シンポジウム双方に関連」「自立準備ホーム関連」「その他」に分類した。

基調講演関連

- ・ 竹原慎二さんのおはなしがきけてよかった。
- ・ ぼっちちゃんの元気な姿と竹原氏の言葉
- ・ 竹原さんのお話に引き込まれていきました。
- ・ 竹原慎二さんの講演は本音の話しだと思うので、盛ったり飾ったりという大袈裟なことも無かったので、聞きやすかったのと、同じ年代で生まれ年は違っていたけど、学年でいうと同じ学年だったので、当時の社会思春期事情に共感できた。
- ・ 基調講演
- ・ 竹原さんの講話
- ・ 「未来は必ず変えられる」。支援者自身も変えられる(変わる)ことを信じてやっていきたいと思う。
- ・ 竹原さんが幼い頃からどんな状況でも生きることをあきらめなかった生き方に影響を受けました。中本さんのお話を聞ける時間もあったら良かったです。

- ・ 竹原氏の講演会を拝聴し、気づけば、人は「変わる」ことができると思った。
- ・ 人との出会いという環境によって人は変われるという事
- ・ 講演会について、せっかくのよい話が経験談になっていたように感じた。できれば、経験の中で、どんな言葉や周囲の人の影響を受けたかが分かるとよかった。

シンポジウム関連

- ・ こんなに沢山の方が熱心に支援活動を行って居られる事に感銘を受けました。
- ・ 支援活動を理解してもらうことの難しさについて。
- ・ シンポジウムの各人の発言が今一つかみ合わない感じがした。
- ・ 今福さんの仕切りが良かった。
- ・ 佐賀ダルクの代表の方のお話がとても感銘を受けるものでした。
- ・ 会場の参加者からの質問や意見を伺う時間がありよかった。
- ・ 佐賀ダルクの取組みが先進的で参考になった。行政が主導してこのような取組みを全国に広げることができないものかと感じます。
- ・ 利用者は刑務所の中がホームであるとの発言が印象に残った。利用者の価値観は変えられない、ありのまま受け入れるという話があったけれども、話としては分かりますが、それで自立準備ホームに適應できるのだろうか。生活指導するのが目的の施設ではないが、ちょっと気になりました。
- ・ 担当者が大変な思いで関わっておられること
- ・ 多くの意見があり、それぞれを尊重していくことが大切ですが、まとまりを持たせ、共通認識をしていくことと反する部分もあるかと思います。個性があり良いと考えています。
- ・ シンポジウムで、自立準備ホームを運営していらっしゃる皆さんそれぞれの思いや考えをお聞きすることができてよかったです。
- ・ 各地に出所者の方々に関わる団体が存在することを知ったこと、みなさんが大変真摯に取り組んでいることを知り、感銘を受けました。
- ・ 社会復帰後の支援について、施設で働いている方の変えさがわかった。
- ・ 地域の中での障害者受容についての議論は面白かった。
- ・ 会場参加者の方々からも意見・質問が多々出て、問題意識の高さを感じた。
- ・ 官民両方の意見が聞けたことで、自立準備ホームおよび地域での支援体制の現状の課題感とこれからについて、理解が深まった

基調講演・シンポジウム双方に関連

- ・ 竹原さん講演 ダルク松尾さんの説明
- ・ 竹原さんの波瀾万丈な人生。各々のシンポジストの説明がわかりやすかった。コーディネーターの進行が良かった。時間内に上手くまとめられていた。

- ・ 竹原さんやシンポジウム通じて、社会復帰には周りの理解とサポートが本当に重要であることを感じました。
- ・ 基調講演はもちろんのこと、シンポジウムでは官民両側からの意見をお伺いすることができ、勉強になりました。施策や制度のこと以外にも、支援をされている方のご経験や思いをお伺いすることができ、大変励みになりました。今後、関東圏で自立準備ホームを立ち上げる予定をしており、高坂様や大田区みんなの家の長谷川様、生き直しの千葉様にも色々ご教授いただいているところではありますが、今後とも何卒よろしくお願いいたします。
- ・ 講演：竹原氏の人生はまさに波瀾万丈であったがガンにも打ち勝ち、これからは人のために役立ちたいという言葉はとても力強く感じた。未来は必ず変えられるのテーマどおり、いきおいのある話しぶりで元気をいただいた 話題提供：日本自立準備ホーム協議会の事業や課題が理解できた シンポジウム：各団体の強みは活かし弱みはなんとか解消しつつ、運営に努めていることが理解できた。また支援者に対する支援の必要性も感じた。

自立準備ホーム関連

- ・ 自立準備ホームについて世間で知られていないこと、社会に周知していくことで支援者の活動が楽にもなること
- ・ 自立準備は大事で今の課題。これからの課題として、生きづらい人(発達障害やいわゆるグレーの子)が犯罪しないで生きていける世の中にしたいです。誰でも安心できる、「ここにおってもいいんやね」と思える居場所を作りたいと思いました。
- ・ 自立準備ホームが経済的に成り立っているのかが、将来を考えると一番心配です。予算・決算的なことを機会があれば聞いてみたいですし、国がもっと考えるべきと思うところがあります。
- ・ 自立準備ホームを退所後の入所者の様々な生活の様子。
- ・ 会場からの質問で、いかに自立準備ホームの制度のことを行政や病院、支援機関の方々に知ってもらえるか!!ということ
- ・ 今まで知らなかった自立準備ホームのことが(必要性)よく理解することができました
- ・ それぞれがそれなりに、自信を持つことで自立できるという事がよく分かりましたので、この様な事を全国規模での情報発信して貰えば良いと思いました。

その他

- ・ 自立支援には、やはり家と伴走する支援者が必要。
- ・ 支援者支援、若年者支援について、自分の課題意識としてあったので、同じ意識を持つ人がいることを知り、よかった。

- ・ 入口支援と出口支援において、お互いの認識の共有が大切だと感じました。ネットワークを作っていく人達の想いと熱意の共有が大事だと感じました。
- ・ 当事者が必要な所に繋がるまで、相当な時間がかかっている事のもどかしさ。「加害」と「被害」がセットである事が少なくない事。
- ・ 矯正施設から社会へ送り出すことは期限(刑期)が来れば、当たり前に来る。その後は保護観や保護施設、はたまた地域にお願いするしかない。社会で刑務所出所者等が色眼鏡で見られず、支援の対象者としてもらえるよう垣根、ハードルを下げるのが、矯正(刑務所、少年院)としての役割であると感じた。矯正という小さい窓から社会をみているだけで、井の中の蛙であったと自問自答するばかりです。矯正から保護とシームレスな社会復帰を実現できるよう協力して歩みたいと思う。
- ・ 地元、広島でのことが解り、とても良かった
- ・ 支援してる人はどこかで支援をしてあげてるという所が出てくる。そのつもりは無いと思いますが、上からが多いという言葉。

Q 「日準協」の活動について、あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)

日本自立準備ホーム協議会の活動に対する意見を、「自立準備ホームのことを発信してほしい」「自立準備ホーム間の連携を強化してほしい」「自立準備ホームに関する講演会などを開催し一般市民を啓発してほしい」「刑務所等から出所する人の社会復帰を支援してほしい」「全国的に広く自立準備ホームが機能するよう支援してほしい」「自立準備ホームの人材育成、研修を充実させてほしい」「課題をまとめて政策提言ができるよう組織体制を強化してほしい」の7つから複数回答が可能な形でたずねたところ、92名から回答が得られた(次頁図6)。

最も多かった回答は、「自立準備ホームに関する講演会などを開催し一般市民を啓発してほしい」の55名であった。以下、「自立準備ホームのことを発信してほしい」が54名、「全国的に広く自立準備ホームが機能するよう支援してほしい」が52名、「刑務所等から出所する人の社会復帰を支援してほしい」が47名、「自立準備ホーム間の連携を強化してほしい」が44名、「自立準備ホームの人材育成、研修を充実させてほしい」が36名、「課題をまとめて政策提言ができるよう組織体制を強化してほしい」が31名であった。なお、92名の回答者のうち75名は複数の意見を回答していた。

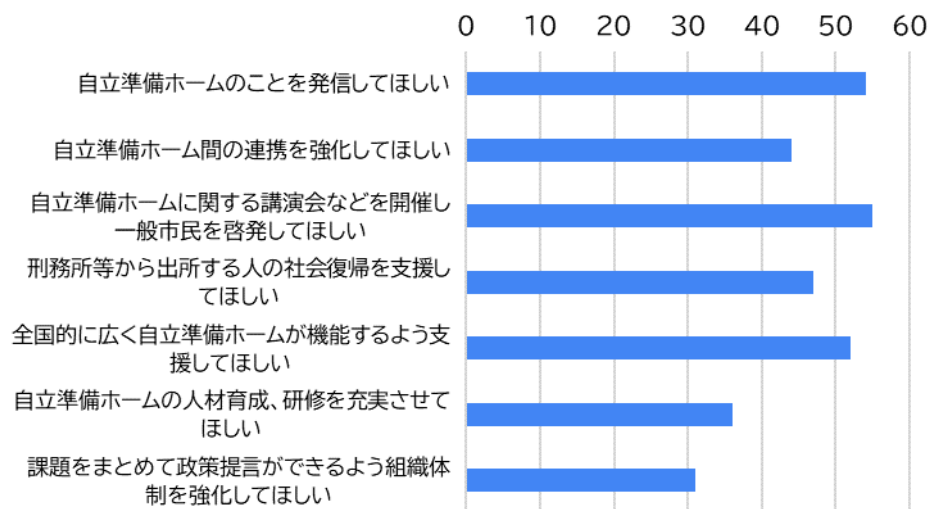


図 6 日本自立準備ホーム協議会の活動に対する意見

Q 「日準協」の活動に対するご要望・ご意見等を自由にご記入ください

日本自立準備ホーム協議会の活動に対する要望や意見を自由記述でたずねたところ、20名から回答が得られた。得られた回答を「広報活動」「他機関との連携」「組織強化」「その他」に分類した。

広報活動

- ・ シンポジウムを YouTube 等のメディアで流してほしい
- ・ 社会に対する周知活動を本気で取り組んで欲しい。今日参加していない人達にどう知って理解していただけるかが大切。
- ・ 自立準備ホームを広く知ってもらう事の重要性。
- ・ 知名度を上げる取り組みをして欲しい。
- ・ たくさんの方にこういった活動を知ってほしいと思いました。
- ・ 成功した方も現在がんばっている方も、がんばれない方の事も、みんなひっくるめて、世の中に知らせてください。必ずキャッチする人が増え、犯罪した人だけでなく再チャレンジする人の勇気や希望につながると思います。

他機関との連携

- ・ 具体例による他機関との連携、自立準備ホームの立つ位置の明確化を推進されたい。
- ・ 昨日のシンポジウムでも出ていましたが、行政の職員でも知らない人間の方が圧倒的に多いと思っています。行政の研修に取り入れてほしい。仁井さんでしたか、力になってほしいです。
- ・ 啓発活動及び自立準備ホーム間の連携の促進。
- ・ 矯正施設から多く引き受けてもらっている状況にあるが、実際、勤務している職員は制度すら知らないので、積極的に矯正に歩み寄って欲しい。協力は惜しみません。
- ・ 法務省の管轄ではないので、後援になっていないと思いますが、警察も巻き込んで欲しいです。裁判所も入れてほしいです。
- ・ 担当者間の情報共有、意見交換の場を設けるべき。担当者のカウンセリング等、精神科や臨床心理士の巡回相談の実施→いずれも法務省に要請してはどうでしょうか？

組織強化

- ・ 応援しております。会員数などさらに増えていくといいなと思います。
- ・ 加入に関する情報が欲しい。

その他

- ・ ①ホームを立ち上げる方法について②掛かる費用と公的負担(援助)について以上について具体的な話を聞きたかった。
- ・ 事務局長の訃報など大変だったかと思います。その中でのこれまでの活動に頭が下がります。
- ・ 広島で今回の会が開かれたことには大きな意味があると思います。オンラインで参加でき、とても良かったです。特に、佐賀ダルクと広島の準備ホームのパネリストのお話、教員からの質問に対するコメントが勉強になりました。年1回に限らず、このような勉強会がオンラインで見れることは更生保護関係者にとってとても意義あるものと思います。
- ・ 罪を犯したことは決して許されることではありませんが、人が人を罰する力を有するのであれば、人が人を許す力も必要だと感じます。触法者がそこに至った背景も含めて、差別や偏見のない社会になるといいなと思っています。
- ・ スタートしたばかりの印象を受けました。これからのご活躍とご発展を祈念いたします。
- ・ 以前、出院者をお世話してもらいました。ありがとうございます。

Q お住まいの都道府県はどちらですか？

参加者の居住地について都道府県名をたずねた。集計にあたり、都道府県名を 8 つの地域ブロックに変換した(図 7)。94 名から回答があり、最も多かった回答は、中国地方の 42 名であった。以下、関東地方が 21 名、中部地方が 11 名、九州地方が 9 名、四国地方が 7 名、近畿地方が 3 名、東北地方が 1 名であった。北海道地方からの参加者は 0 名であった。

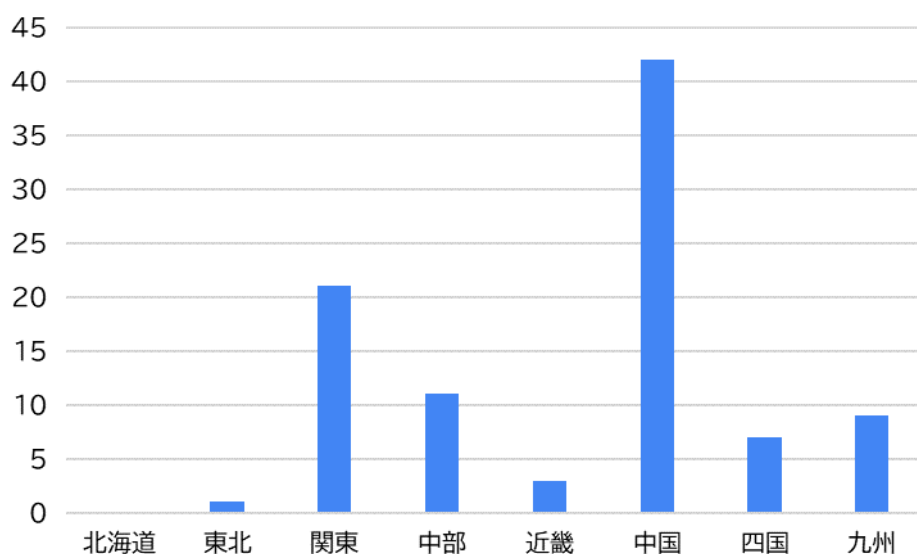


図 7 参加者の居住地

Q あなたは、次のうちどれにあたりますか？ 主たるものひとつをお選びください

参加者の主たる属性についてたずねたところ、94 名から回答が得られた(次頁図 8)。最も多かった回答は、一般の市民の 17 名であった。以下、福祉関係者が 14 名、更生保護関係の行政職員が 12 名、自立準備ホーム事業者関係者が 11 名、矯正関係の行政職員が 10 名、保護司が 7 名、研究者が 5 名、BBS 関係者が 3 名、更生保護施設関係者、矯正・保護以外の行政職員、司法職員がそれぞれ 2 名ずつ、更生保護女性会関係者、弁護士がそれぞれ 1 名ずつ、その他が 7 名であった。

その他と回答した方には、詳細を自由記述で記入してもらった。7 名の回答は、それぞれ、元民生児童委員、就労支援事業者機構職員、市議会議員、社会保険労務士、NPO 法人(非行犯罪に関わる若者への相談支援等の事業を実施)、学校関係者、薬物依存症者の家族であった。

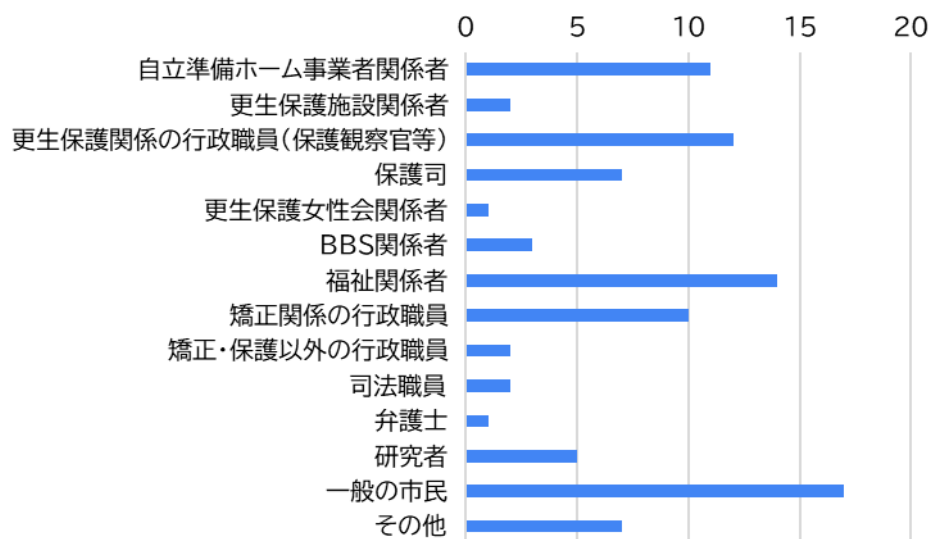


図 8 参加者の主たる属性

Q 今回のイベントに参加して「日準協」に加入したいと思いましたか？

参加者の主たる属性をたずねた質問で、「自立準備ホーム事業者関係者」と回答した参加者に、日本自立準備ホーム協議会に加入したいかたずねたところ、11 名から回答が得られた(図 9)。結果は、「すぐ加入したい」が 1 名、「加入を検討したい」が 2 名、「加入は見送りたい」が 1 名、「すでに加入している」が 7 名であった。

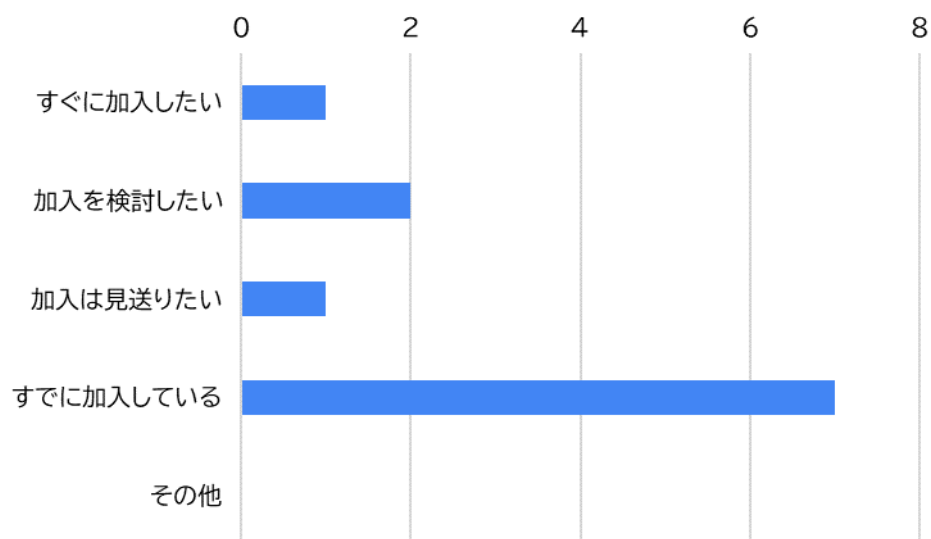


図 9 日本自立準備ホーム協議会への加入意志

Q 「日準協」に期待していることはありますか？ 自由にご記入ください

参加者の主たる属性をたずねた質問で、「自立準備ホーム事業者関係者」と「更生保護関係の行政職員」と回答した参加者に、日本自立準備ホーム協議会に対する期待を自由記述でたずねたところ、自立準備ホーム事業者関係者から 2 名、更生保護関係の行政職員から 5 名の回答が得られた。

自立準備ホーム事業者関係者 2 名の回答は以下のとおりであった。

- ・ 支援の幅を広げてほしい
- ・ アンケートの通り

更生保護関係の行政職員 5 名の回答は以下のとおりであった。

- ・ 自立準備ホームの職員と保護観察所職員のカジュアルな意見交換の場があるとうれしいです。
- ・ より多くの会員団体を得て、全国の事業者の実態や意見を把握・集約し、政策提言等もできるような団体になっていただきたいです。
- ・ 自立準備ホームが団体運営や処遇において信頼できる団体であるというブランド？を作ってもらいたい
- ・ 自立準備ホームの横の連携
- ・ 上記質問の 1～7 に同じ(集計者注:8～9頁参照)。より一層の連携を願います。

Q 「日準協」について懸念されていることはありますか？ 自由にご記入ください

参加者の主たる属性をたずねた質問で、「更生保護関係の行政職員」と回答した参加者に、日本自立準備ホーム協議会に対する懸念を自由記述でたずねたところ、3 名から回答が得られた。記述内容は以下のとおりであった。

- ・ 組織化することによる「連携」の形骸化。いつまでも顔の見える関係が必要と思います。
- ・ なかなか人手が足りないのではないかと心配しています。
- ・ 継続的・安定的な活動ができるよう資金調達を期待します。

令和4年度講演会・シンポジウム参加者アンケート結果報告書

発行日 2023(令和5)年2月14日

アンケート集計 岡邊 健

(京都大学大学院教育学研究科教授・(一社)日本自立準備ホーム協議会理事)

報告書作成 大江將貴

(京都大学大学院教育学研究科研究員・龍谷大学犯罪学研究センター嘱託研究員)

発行者 一般社団法人日本自立準備ホーム協議会

特定非営利活動法人食べて語ろう会

全国再非行防止ネットワーク協議会